



“新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックによる困難に際し、在日ブラジル市民評議会から日本社会の皆様への公開書簡

2020年、日本とブラジル両国民の友好関係、連帯感、協力の強い絆に基づく二国間関係は125周年を迎えています。

そして112年前の大陸間規模の動きが、文化的に大きく異なり地理的にも遠く離れた国民同士を近づけ、何千年もの伝統を誇る民と、「新世界」の誕生と共に歴史が始まった国家とを結び付けました。日本から出港しブラジルへと向かった船に乗っていた移民世帯は歓迎され、日本国外最大の日系社会の始まりとなりました。

それから約80年後、人的絆の循環というコンテキストにおいて、日系ブラジル人は仕事や新たな機会を求めて来日しました。そして日本に根を下ろし、受け入れてくれた日本社会の経済や活性化にしっかりと貢献するコミュニティーを形成しました。

駐日ブラジル大使館並びに3つのブラジル総領事館（在浜松、在名古屋、在東京）との協力にて、在日ブラジル人社会30周年の記念事業を進める予定でございました。しかし、新型コロナウイルス感染症大流行の影響を受け、日本でも多く見られるように、当方でもやむを得ず計画を延期する運びとなりました。

懸念や不安が続く状況ではありますが、在日ブラジル人市民評議会は、ブラジル人が日本社会と協調し、皆で共に幸福でいられるよう尽力したい所存であることを、ここに強調したく存じます。

在日ブラジル人市民評議会は、新型コロナウイルス感染症大流行を受け日本当局より発表されている諸対策について在日ブラジル人の意識向上が得られるよう働きかけております。NPOや各ブラジル総領事館との協力にて、日本で国・都道府県・市町村から出されている様々な要請・指導内容のポルトガル語版をブラジル人向けに用意しております。



また、失業や収入減少、家庭内暴力等により困窮しているブラジル人を対象に、生活必需品配給や脆弱状況な世帯の母親向けバーチャル支援等、独自の補足的な支援事業をも手がけております。各ブラジル協会の取り組みに多くの日本人の方々にもご協力いただいておりますが、そこでは正に、両国の友好関係の本質である連帯感という理想が実現化されています。

在日ブラジル人の多くは、その従事している業務の性質上、また家族や友人による支援にも頼れない場合が多いことなどから、一般的な日本国民よりも脆弱な立場に置かれています。日本の関係当局による在日ブラジル人のニーズや期待に対する共感的姿勢が日に日に深まっていることを確認し、大いに感謝しております。

つきましては、危機的な状況下においても在日ブラジル人が忘れられることはないことを確信し、ここで改めて心より御礼申し上げます。

21万人以上に及ぶ在日ブラジル人は、工員、企業家、アーティスト、学者、農業従事者、学生、家事従事者、通訳者、日本の自治体や学校の支援員等、様々な職種に就き日々勤勉に働いています。2020年には、これまで30年に渡り溶け込んできた日本社会の社会的・経済的繁栄に今後も貢献し続けたいという決然とした意志を今一度強調したく存じます。

日本は逆境を乗り越える力に長けていることでよく知られています。それは今回も変わらないものと確信しております。2011年と同様に、大きな試練をまた一つ、日本の皆様と共に乗り越えられるよう、在日ブラジル人コミュニティー全体で励んで参りたく存じますので、何卒宜しくお願い申し上げます。”